



SNSの発展とそこにある Diversity & Inclusion

公益財団法人日本植物調節剤研究協会 評議員
日本農業株式会社 執行役員 市場開発本部長
奥村 博

私が社会人となった 90 年代初めのコミュニケーションはまだ F2F の面談が常識で、固定電話で顧客と打ち合わせするのさえ「礼を欠く」と教えられました。緊急で宛先の多い連絡やルーティーンの注文などがやっと FAX に切り替わったくらいの時代です。その後、Email が登場し、ポケベルに慣れたかと思ったら「マルサの女」で観た携帯電話があつという間に日常のものとなりました。そして BlackBerry を筆頭にスマートフォンが台頭し、遂には Apple の iPhone の販売開始から世の中が大きく様変わりしました。ハードの技術革新に伴ってソフトも恐ろしいスピードで発展し、SNS が普通の人の普通のコミュニケーション手段となりました。

何事にも光の部分と影の部分がありますが、以前は影にあったものが光を浴びるようになったように感じています。以前は「Silent Minority」という言葉がよく使われました。「声なき弱き者」という意味合いで社会的弱者を指します。それが今は「Noisy Minority = 声を上げる少数派」があらゆる SNS 媒体で自らの存在や主張、不満や不平を声高に叫ぶようになりました。例えば昨今流行りの LGBT 論争や活動もやはり SNS 媒体で声を上げ世論形成に注力しています。様々な声表に出る事は D&I の側面からも歓迎したいのですが、その内容については眉を顰める部分が多々あります。90 年代から始まった「農業は悪」といった煽情的な非科学的なジャーナリズムに似たものを感じます。当時はそう言った記事も新聞や週刊誌が主体で判りやすい嘘や出鱈目が多く一定以上の知性や知識のある読者であれば信じることもありませんでした。しかし、今は IT 技術の発展で事実が嘘に、嘘が事実に見事に加工・修正されます。亡くなった美空ひばりが新曲を紅白で歌ってから数年で加工技術は飛躍的発展を遂げ、政治家や著名人がまるで本当に話しているかのような動画が作成され SNS で拡散され、存在しない火山が爆発し暴動が起き、秘密結社が隕石を使って世界を滅亡に導く。実

際、「見事」と言いたくなるような画像処理・演出で拍手してしまう程の出来栄です。政治的な意図を持った者達が画策したのもあれば、単なる愉快犯も居るでしょう。恐ろしい事にそれを信じて拡散する人も沢山いる事です。そして嘘が事実になっていく。いや、それが事実と信じる人にはやはりそれが事実なのでしょう。いやいや、それを信じない私が間違っているかも知れませんね。

さて、D&I は身近な所でも見られます。COVID で海外出張が厳しく制限された 3 年間で所謂ビデオ会議が盛んになりました。ビデオ会議ソフトも急速に改善されて大雑把な議事録も作ってくれるし録画も取れて参加出来なかった人も後で時間を見つけて視聴できる。賛成派は「何時間も飛行機に乗って週末を潰して出張しなくても良くなった。自分や家族との時間が増えた。体の負荷も減った。」と言い、一方、反対派は「やはり F2F じゃないとニュアンスが通じない・わからない。やはり出張は楽しい。」と。色んな意見がありますね。どっちが正しいかという議論もこれからはどっちも正しい、或いはどっちでも良いという Diversity を認める世の中になるのでしょうか。自分の意見や価値観が自由に表現出来るようになり、それに同意・共鳴する人達と容易に繋がるようになる世界です。それを良しとする人達もいれば、それこそが分断の種だと憤る人もいます。

昨今は逆に「Silent Majority = 静かなる多数派」という言葉も使われるようになりました。現状に（そこそこ以上）満足し急激な変化を求めない層です。この層もやはり Diversity の一つですが、なぜか D&I を求める Noisy Minority の標的にされがちです。もう少し D&I のコンセプトが成熟すると双方が受け入れ合うのかも知れませんね。でも私が生きている時代では無理かな。